

令和4年12月27日
(2022年)

保護者のみなさま

吹田市立東山田小学校
校長 植村 誠

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

☆ほとんどの項目において全国値を上回っており、良好な結果となった。

☆記述式問題では、無回答率も低く、意欲的に回答していると考えられる。

☆国語に対する意識は、全国値をおおむね上回っており、基礎的、基本的な知識、技能が身につけていると考えられる。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」は、全国値を上回る。
- ・「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」は、全国値をやや上回っている。

書くこと

- ・「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」は、全国値を上回る。
- ・「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」は、記述式問題であったが、全国値を上回る。

読むこと

- ・「登場人物の行動や気持ちの変化を読み取る」は全国値と同じである。
- ・「話の組み立てを捉える」は、全国値を上回る。登場人物の相互関係について、描写を読み取ることができている。
- ・「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」は、全国値をやや上回っている。文字数に制限がある記述式問題であるが、物語から伝わってくることを簡潔にまとめられている。しかし、国語の問題の中で、無回答率が最も高い。
- ・「表現の効果を考える」は全国値をやや上回る。

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「話し言葉と書き言葉との違い」は、全国値を上回っているが、無回答率が少し高い。
- ・「漢字を文の中で正しく使う」は、全国値を上回り、同じ部分や同じ読み方をする漢字を注意して使うことができている。

《国語科における今後の指導改善点》

14問中12問で全国の正答率を上回った。また、無回答率も14問中12問で全国値を下回っており、おおむね良好と考えている。特に、物語の登場人物の相互関係について読み取る力や漢字を使って書き直す問題などで全国値を上回っており、今後も基礎学力の定着について継続していきたい。また、協働的な学びの中で、筋道を立てて自分の考えを書いたり、説明したりする機会を増やし、ICTの活用を含めて自分の意見と比較しながら自分の考えを整理して考える力を伸ばす指導に力を入れていきたい。

●算数《概要》

☆平均正答率は、全国値とほぼ同じ結果となった。

☆無回答率が全国値より低く、意欲的に回答していると考えられる。

☆基本的、基礎的な算数に関する知識、技能が身につけていると考えられる。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・全国値を上回っているが、乗法計算の問題では、全国値を下回る。乗法に関して成り立つ性質を生かして計算したり、空位のある整数の乗法に課題がみられる。

図形

- ・「正三角形、長方形、ひし形の作図」においては、全国値を上回っているが、平行四辺形の作図は、全国値を下回っている。示された作図の手順を基に、どのような図形ができるか判断することに課題がみられる。

測定

- ・今年度は、「測定」領域の問題は、実施されなかった。

変化と関係

- ・全国値を上回っているが、「比例関係」を用いて未知の数量の求め方と答えを記述することに無回答もあり、課題が見られた。
- ・示された場面において「数量が変わっても割合は変わらないこと」を理解することに課題が見られ、全国値を下回っている。算数の問題で全国値が一番低い問題であった

データの活用

- ・全国値を上回っている。表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができた。

《算数科における今後の指導改善点》

16問中13問で全国の正答率を上回った。また、無回答率もすべての問題で全国値を下回っており、算数への関心意欲が比較的高く、基礎的な力もついており、おおむね良好と考えている。しかし、1050といった途中に0がある数を使った掛け算や、割合、作図などに課題が見られた。今後様々な数を使った計算や数と数の変化の関係、図形の作図などの問題を解く機会を増やしたい。また、ICTの活用を進め、個別最適な学びと協働的な学びを通し思考力判断力を育む指導に力を入れていきたい。

●理科《概要》

☆ほとんどの項目において全国値を上回っており、良好な結果となった。

☆理科に対する意識は、全国値より上回り、児童の興味・関心は高い。

《各領域における成果と課題》

物質

- ・全国値をやや上回っている。
- ・「凍った水溶液について」の問題は、全国値を下回った。現象から得た情報を自分や他者の気づきを捉え、差異点や共通点を基に自分の考えを記述する問題に課題が見られた。

エネルギー

- ・全国値をやや上回っている。
- ・「日光が直進するといった光の性質について」は、全国値とほぼ同じ。理科の問題で全国値が一番低い問題であった。

生命

- ・全国値をやや上回る。
- ・「昆虫の育ち方と食べ物について」は、全国値を下回る。提示された情報と新しく得た気づきから問題を見出す際に、気づきを十分把握し、比較するといった考え方に課題がみられた。

地球

- ・全国値をやや上回る。
- ・「冬の天気と気温の変化」について、整理した資料を分析し、解釈して読み取ることができた。

《理科における今後の指導改善点》

17問中14問で全国の正答率を上回った。また、無回答率も17問中15問で全国値を下回っており（うち1問は同率）、おおむね良好と考えている。特に、実験器具の使用方法や「実験で得た結果を、分析、解釈し、自分の考えを記述できる」力が高く、日頃の理科での実験観察を中心とした取り組みの成果だと考えている。今後、ICTの活用や協働的な学びを土台とし、他者の考えと自分の考えを比較検討する力や、自分の考えを整理し伝える力を伸ばす指導に力を入れていきたい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙の結果から）

*学習について

- ・「五年生までに受けた授業で、発表の工夫・課題解決・考えをまとめる・新しいものを創り出す活動をしましたか」の質問に対し、全項目全国平均を大きく上回る結果であった。その理由としては算数の少人数学習の実践や各教科で振り返りの時間を確保していることが考えられる。
- ・「家では自分で計画を立てて勉強していますか」に対して、「よくしている」、「ややしている」と回答した割合が全国平均をやや下回り、「全くしていない」と回答した割合が上回っている。児童自身で計画をもって学習することが課題である。
- ・「読書は好きですか」に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が全国平均を上回っている。
- ・タブレットの使用に関して、学校で使う機会（授業中の調べ学習や意見交換、その他）が「ほぼ毎日」、「週3回以上」、と回答している割合が全国平均を大きく上回っている。日頃から、児童がタブレットを使用していると感じられる授業がなされていると読み取れる。また、「勉強の役に立つ」と回答している割合が全国平均を大きく上回っているため、児童にもiPadの意義が伝わっていると考えられる。

*生活習慣について

- ・85%以上の児童が就寝・起床時間、朝食のリズムが出来ており、全国平均を上回っている。
- ・スマホの使用時間は全国平均より短い。今後も児童、家庭とともに使用について考えていきたい。
- ・授業以外での学習時間は全国平均より高く、家庭のサポートや家庭の学習に対する高い意識が窺える。
- ・放課後や週末は、コロナの影響もあつてか地域の方との触れ合いは少なく、習い事をしている児童が多い。
- ・習い事や家庭学習等で忙しい中、普段から本に親しむ児童が多い。

***規範意識について**

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答が全国値 95%に対して、本校は 98%であった。この事から、本校の児童はいじめに対して否定的な考えをもっていることが分かる。いじめは常日頃から、一人ひとりが自分事として捉え考えておく事がいじめ防止に繋がる。そのきっかけ作りとして本校で取り組んでいるいじめ予防授業が、効果的に働いているのではないかと考えられる。

***自尊感情について**

・「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、本校は、肯定的な回答が約 80%と、全国平均の 80%と同じ結果となった。しかし、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答が全国は 86%に対して、本校は 95%と 10%近く上回る結果となった。この事から、教師の何気ない一言や子どもたちへの評価が本校の児童の自尊感情を高めるきっかけになっているのではないかと考えられる。

***友達関係、その他の項目について**

- ・「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に対して、94%の児童が前向きな回答をしており全国平均とほぼ同じ数字となっている。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、全国値の 51.7%に対して 64%と高い回答となっている。
- ・「あなたの家には、おおよそどれくらいの本がありますか」の質問に対して 26冊以上本がある家庭が全国値の 69.4%に対して 80.7%と高い回答率となっている。また 0～10冊までの家庭が全国値 11.6%に対して 4.7%と低い回答率となっている。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、全国値の 52.7%に対して 43.3%と低い回答率となっている。

3 課題及び今後の取り組み

学習面では、多くの児童は、基礎基本の力が身につけており、意欲的に学習に取り組んでいますが、自分から進んで計画を立て学習したり調べたりすることが課題となっています。また、読書を好み、タブレットを学習に役立てることができる傾向もうかがえました。学校では、ICTの活用を進めており、今後もタブレットを使った協働的な学びを進めていきたいと考えています。その中で、児童の学習への意欲関心を高める工夫について取り組んでいきます。

生活習慣については、各ご家庭でのサポートが成果として表れていました。今後とも、学校と情報を密にし、ご協力をお願いします。

ICTの活用とともに、学校ではいじめ防止についても取り組みを進めています。児童のいじめ防止に対する意識も高く、それらの知識をどのように学校生活に反映させるかについてが課題と感じています。今後、いじめ防止授業や道徳を中心として、取り組みを進めていきたいと考えています。

最後に、一人一人の子供たちが、自分の良いところに気づき、友達と一緒に活動することが楽しく、何よりも学校に行くのが楽しいと感じることを、大切なことだと考えています。自分の力を信じて失敗を恐れずに取り組み、やり遂げることを通して自信をつけるという経験や、自分自身の価値を他人と比較するのではなく、自分自身を認め、まわりの人からも認められるという経験を、一人ひとりが持てるよう、成功体験や達成感を味わえるように、ご家庭と協力して取り組んでいきたいと考えます。

今後とも、本校教育活動に対し、保護者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。